

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(移植)1)

フォント(書体)は記入部分が目立つように変えています。実際は明朝体などを使用して下さい。

薬剤名 ○○1キロ粒剤
 県名 ○○県

普及所等の名称と、実施市町村を記入。

作物 移植水稻
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

区分 一発処理

区分:技術確認圃の申請書の区分に従う。
実際に田面露出した期間

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	移植量	移植深	中干※
確認圃 30 a	45m	埴壤土	土畦畔 畦塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	20○○年 4月30日	20○○年 5月5日	0.5 cm/日	18.5 cm 2.5 L	+45~55 (7日間)
慣行 30 a	12m	軽埴土	土コンクリ 畦塗無し	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	20○○年 5月1日	20○○年 5月2日	1 cm/日	20.1 cm 2.8 L	-

圃場	回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時作物の生育程度	処理時の雑草発生状況	備考
確認圃	処理1回目	○○1キロ粒剤 1kg	5月5日 (±0)	田植同時 0cm→3cm	2.5L	未発生	中干期間:中干開始から中干終了(再入水)までの期間を移植後日数で記載する。そのうち実際に土壌表面が露出した日数をカッコ書きで示す。実施しない場合は「無し」。未確認は「-」。
	処理2回目	△△△液剤 1000mL(100L)	7月1日 (+57)	動力噴霧機 0cm	-	オモダカ 20	
	慣行	□□1キロ粒剤	5月2日 (+0) 6月28日 (+57)	動力散粒機、3cm 0cm→3cm 動力噴霧機 0cm			

確認している場合のみ記入。

処理時の作物の状況

処理時の雑草発生状況

雑草調査後に慣行防除で散布した除草剤があれば()で記入する。

移植後日数:移植日を0とした日数を記入する。田植同時処理は(±0)として、移植直後処理(+0)と区別する。

処理時水深:田植同時処理、水口処理では処理時と入水後の水深を記入する。

乾物重、生体重のいずれかを記入。

移植後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))				雑草調査日: 6月30日 (+56)	雑草		症状・程度	収量比対慣行	評点
	ハビエ	カヤツリグサ類	コナギ	アゼナ		一年生広葉	多年生雑草			
確認圃	1.2	0	0	0.1	t	0.1 (13.5)	1.4 (64%)	無	100%	A
慣行	1.4	0	0.5	0	0.1	0.1 (20.2)			100%	

残草した草種名を記入。

上段:残草量
下段:慣行区比

発生量が多い草種には(多)を記入。

・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。
 (注)散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。

備考

無処理区での発生雑草ノビエ、コナギ(多)イ、マツバイ、
 処理時の状況及び所感
 散布準備時間:○分、散布時間:○分、散布人数:○人
 処理2日後に降雨(○○mm)があり、若干オーバー
 田面が高く露出したところでノビエが残草した。

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(移植)2)

薬剤名 ○○○ジャンボ
 県名 ○○県

作物 移植水稻
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

区分 体系処理(初期)

※中干の括弧内は実際に田面露出した期間

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干※
確認圃 10 a	—	砂壤土	土畦畔 畦塗あり	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	20○○年 4月17日	20○○年 4月22日	0.5 cm/日	12 cm 2.1 L	
慣行 10 a	—	砂壤土	土畦畔 畦塗あり	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	20○○年 4月17日	20○○年 4月24日	0.5 cm/日	14 cm 2.2 L	—

圃場	処理回数	薬剤名 薬量()	処理日	処理方法	処理時水深	処理時の状況	
						作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理1回目	○○ 10				2.2L	未発生
	処理2回目	△△△				3.6L	/ビエ 発生始
	処理3回目						
慣行	処理1回目	○○7ロアフル 500mL	4月25日 (+1)	畦畔から手振り 5cm		2.2L	未発生
	処理2回目	△△△7ロアフル 500mL	5月23日 (+27)	畦畔から投入 5cm		3.6L	/ビエ 発生始、ホタルイ 発生始
	処理3回目						

畦畔状況:
 上段は種類:土畦畔、コンクリ(コンクリート)、土コン(土
 畦畔とコンクリートの複合畦畔)など
 下段は整備状況:畦塗なし、畦塗あり、畦畔板設置など

稲の葉齢は、不完全葉を
 除いて数える。

乾物重、生体重のいずれかを記入

移植後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))					雑草調査日: 6月16日 (+54)		薬害		評点
	ハビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉	コナギ	ホタルイ	多年生雑草	総計 (下段)は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	2本	0			5本		0.3 (60%)	無	100%	A
慣行	5本				4本					
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): /ビエ、ホタルイ、アゼナ、コナギ					・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。 注)散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。 ・評点が「-」の場合、その理由を記入する。 ・残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 ・気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。				

残草量が少なく重量の計算が困難な場合は、本数調査でも良い(単位(本)を記入し、本数調査であることを示す。)

上段:残草量
 下段:慣行区比

技術確認圃 報告書 記入例(水稲除草剤(直播))

薬剤名 **フロアフル**
 県名 **県**

湛水直播、乾田直播のいずれかを記入する。

作物 **直播水稲**
 施場所 **普及所(□□町)**

区分 **直播栽培**

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	栽培方法	播種方法	植代日/播種日	減水深	水管理	中干
確認圃 30 a	55m	砂壤土	コンクリ 畦畔板	きめむすめ	湛水直播	鉄コーティング 表面播種	20〇〇年5月10日 20〇〇年5月15日	1.5 cm/日	播種後に水深3cmまで入水し、その後 自然落水した。5月〇日に再入水した	+55~65
慣行 30 a	50m	砂壤土	土畦畔 畦畔板	きめむすめ	湛水直播	鉄コーティング 表面播種	20〇〇年4月30日 20〇〇年5月1日	1 cm/日	"	+50~60

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/10a	播種日	播種方法	時水深	作物生育程度	雑草発生状況
確認圃	処理1回目	1キロ粒剤 1kg	5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm		出芽前	未発生
	処理2回目	フロアフル 500mL	5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm		1L	/ビエ 2L、ホタルイ2L(多)
	処理3回目						
慣行	処理1回目		5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm		出芽前	未発生
	処理2回目		5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm		1L	/ビエ 2L、ホタルイ2L(多)
	処理3回目						

コーティング資材についても記入する。

処 況

水管理: 播種から再入水までの水管理を記入する。(乾田直播では入水日を記入。)

播種後日数: 播種日を0とした日数を記入する。播種同時処理は(±0)として、播種直後処理(+0)と区別する。

発生量が多い草種には、(多)を記入する。

乾物重、生体重のいずれかを記入。

播種後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月25日 (+48)		薬害		評点
	ノビ	カヤツリガサ	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			合計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行			
確認圃			コナ	アゼ	イボ			オモ			13.6 (99%)	なし	100%	A	
慣行	0					5.5		8.3		13.8					
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ、コナギ、アゼナ、ホタルイ、オモダカ、クサネ										・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。 注) 散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。 評点が「-」の場合、その理由を記入する。 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。				

無処理区を設置できなかった場合は、「周辺圃場での発生雑草」を記入する。
 (記入例)
 ※ノビエ、※コナギ、※アゼナ、※ホタルイ (※は周辺圃場で発生した雑草)

・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。
 注) 散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。
 評点が「-」の場合、その理由を記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。

無処理区での発生雑草(発生程度):
ノビエ、コナギ、アゼナ、ホタルイ、オモダカ、クサネ
 処理時の状況及び所感(特記事項等含む):
散布準備時間: 〇分、散布時間: 〇分、散布人数: 〇人
農家のコメント: 確認圃では、気になっていたイボクサが、とてもありがたい。

技術確認圃 報告書 記入例(水稲除草剤(ドローン散布))

薬剤名 ○○○粒剤250
 県名 ○○県

作物 移植水稲
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

区分 体系処理(初期)

※中干の括弧内は実際に田面露出した期間

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干※
確認圃 10a	—	壤土	コンクリ 畦畔板	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	20○○年 4月17日	20○○年 4月22日	1 cm/日	12 cm 2.1 L	—
慣行 10a	—	壤土	土畦畔 畦畔板	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	20○○年 4月17日	20○○年 4月24日	1 cm/日	14 cm 2.2 L	—

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理1回目	○○○粒剤250 10個(250g)	4月23日 (+1)	ドローン散布 5cm	2.2L	未発生
	処理2回目	△△△70アフル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始
	処理3回目					
慣行	処理1回目	○○70アフル 500mL	4月23日 (+1)	畦畔から手振り 5cm	2.2L	未発生
	処理2回目	△△△70アフル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始、ホタルイ 発生始
	処理3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))					雑草調査日: 6月16日 (+54)	薬害	評価点
	ノビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉					
確認圃	2本	0						・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。 (散布器、散布液の調製などに時間がかかる場合は、散布準備時間として記入する。) 注)散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、 10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。 ・評点が「-」の場合、その理由を記入する。 ・残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 ・気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。
慣行	5本	0						
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ、ホタルイ、アゼナ、コナギ 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): ドローン散布設定: 飛行速度15km/h、散布間隔10m、シャッター開度60% 散布時間: 確認圃(散布準備12分、散布時間2分、作業人数2人)、慣行(散布時間20分、作業人数1人) 農家のコメント: 慣行区に比べ作業時間が少なく、省力化できていると感じた。 確認圃は、前年度に雑草が多く残草した圃場であったが、除草効果は良好であった。							